



August Sander & Akira Gomi

アウグスト・ザンダーと五味 彬

映像工夫館作品展 Images and Technology Gallery Exhibition

1997年6月5日[木] 7月27日[日]

会場＝東京都写真美術館・地下1階映像展示室

主催＝東京都写真美術館

観覧料＝一般・大学生500円(400円) 小・中・高校生250円(200円)

企画・常設・映像工夫館展共通観覧料＝一般・大学生1,000円(800円) 小・中・高校生500円(400円)

いずれも()内は、20名以上の団体料金

小学生未満、65歳以上の方、および障害のある方とその介護者1名は

無料になります(証明できるものをご持参ください)

開館時間＝10:00～18:00(木・金は20:00まで)

入館は閉館の30分前まで

休館日＝毎週月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合はその翌日)



東京都写真美術館

〒153 東京都目黒区三田1-13-3 Tel.03-3280-0031
1-13-3 Mita, Meguro-ku, Tokyo 153



アウグスト・ザンダー 《中産階級の子供》 1927年頃



アウグスト・ザンダー 《菓子作りの親方、ケルン》 1928年頃



アウグスト・ザンダー 《作曲家ハインリッヒ・ケルン》 1926年

映像工夫館ではテーマ展「記録としての映像」にあわせて、作品展のシリーズ「時と空間の記憶」を開催します。

シリーズの第2回は「アウグスト・ザンダーと五味彬」と題し、人間の記録をとおりて時代を表現しようとした、または現在も続けているふたりの写真家の作品を紹介します。

写真というメディアが持つ記録性を出来る限り誠実に生かすためには、対象物の本質を見抜く鋭い眼とそれを捉えようとする忍耐力、そして感情に溺れず被写体と丁度よい距離を持つことのできる能力が必要で、その捉えたイメージをどう伝えるか、その方法が非常に重要になってきます。

1876年ドイツで生まれたザンダーは、「見ること、観察すること、そして考えること」を制作の動機として、彼が生きた当時の社会を7つのグループに分類し、さまざまな階級、職業の人々の肖像写真によるドキュメンタリーを試みました。この壮大な構想は「20世紀の人間たち」と題してまと

められ、出版されるはずでしたが、ナチスの妨害により中断を余儀なくされ、彼の生前には実現されることがありま

せんでした。

1953年東京生まれの五味彬は、現代に生きる女性たちの体型を記録し続けています。10代から20代のプロフェッショナルなモデルたちではなく、様々な職業の若い女性たちを、数パターンの角度で同一ポーズによる撮影をし、CD-ROMに収録しています。CD-ROMを表現の媒体として選んだことにより、彼が本来意図しようとした、感情と主観を排除した無機質な感覚がより忠実に再現されています。

このふたりの写真家が捉えた大量のイメージを見ていくと、それは単なる人物の記録を超えて、時代そのものを感じ取ることができます。そして、彼等の作品を見るたびにぼんやりとした時の記憶が甦ってくるのです。

今回、アウグスト・ザンダーのプリント作品と五味彬はCD-ROMに加えデジタル・プリントも展示します。ふたりの写真家と、ふたつのメディアをここに同時に見ることで、ザンダーがかつて制作の動機とした「観察し、考える」場としていきたいと思っています。

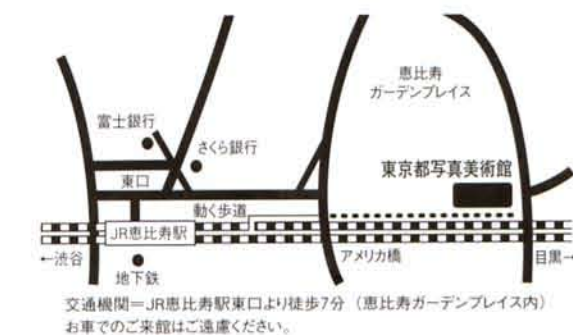
講演会のお知らせ

主催＝東京都写真美術館

日時＝6月29日(日) 15:00～17:00

講師＝五味 彬(写真家)

会場＝東京都写真美術館1階ホール(聴講無料・定員200名)



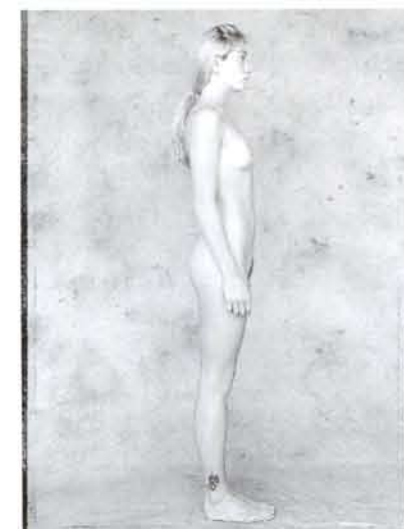
交通機関＝JR恵比寿駅東口より徒歩7分(恵比寿ガーデンプレイス内)
お車での来館はご遠慮ください。

左:アウグスト・ザンダー 《医長》 1928年頃(左)

五味彬 《愛本嬢》シリーズ「イエローズ 2.0 トーキー」 1993 年(右)



五味彬 《仲村沙弥》
シリーズ「イエローズ 2.0 トーキー」 1993 年



五味彬 《セヴェリン・ヴァン・ガーデレン》
シリーズ「アメリカンズ 1.0 1994 ロサンゼルス」 年



五味彬 《豊春美》
シリーズ「イエローズ 3.0 1994 チャイナ」 年

展覧会予告

「IDEAL COPY 個展」(仮称)

7月31日(木)～9月28日(日)

「Film Photography」(仮称)

10月3日(金)～11月29日(土)

展覧会のご案内

ハローダイヤル 03-3272-8600

<http://www.tokyo-photo-museum.or.jp>